

# 決済分野の変革と展望

※資料中に記載されている会社名、ロゴ、製品およびサービス名は、各社の商標あるいは登録商標です。

2019年2月25日

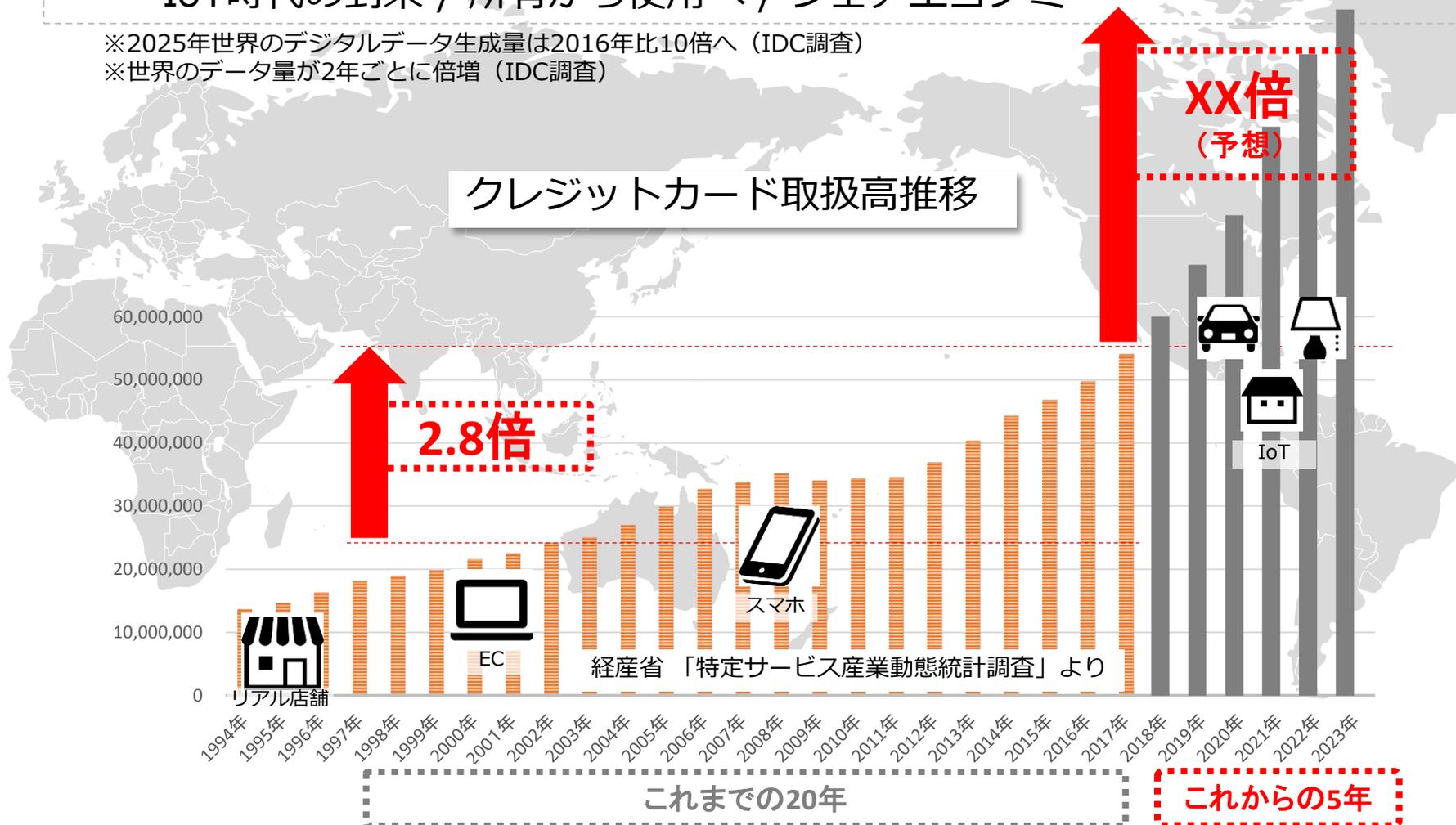
三菱UFJニコス株式会社



# 1. 決済分野の展望

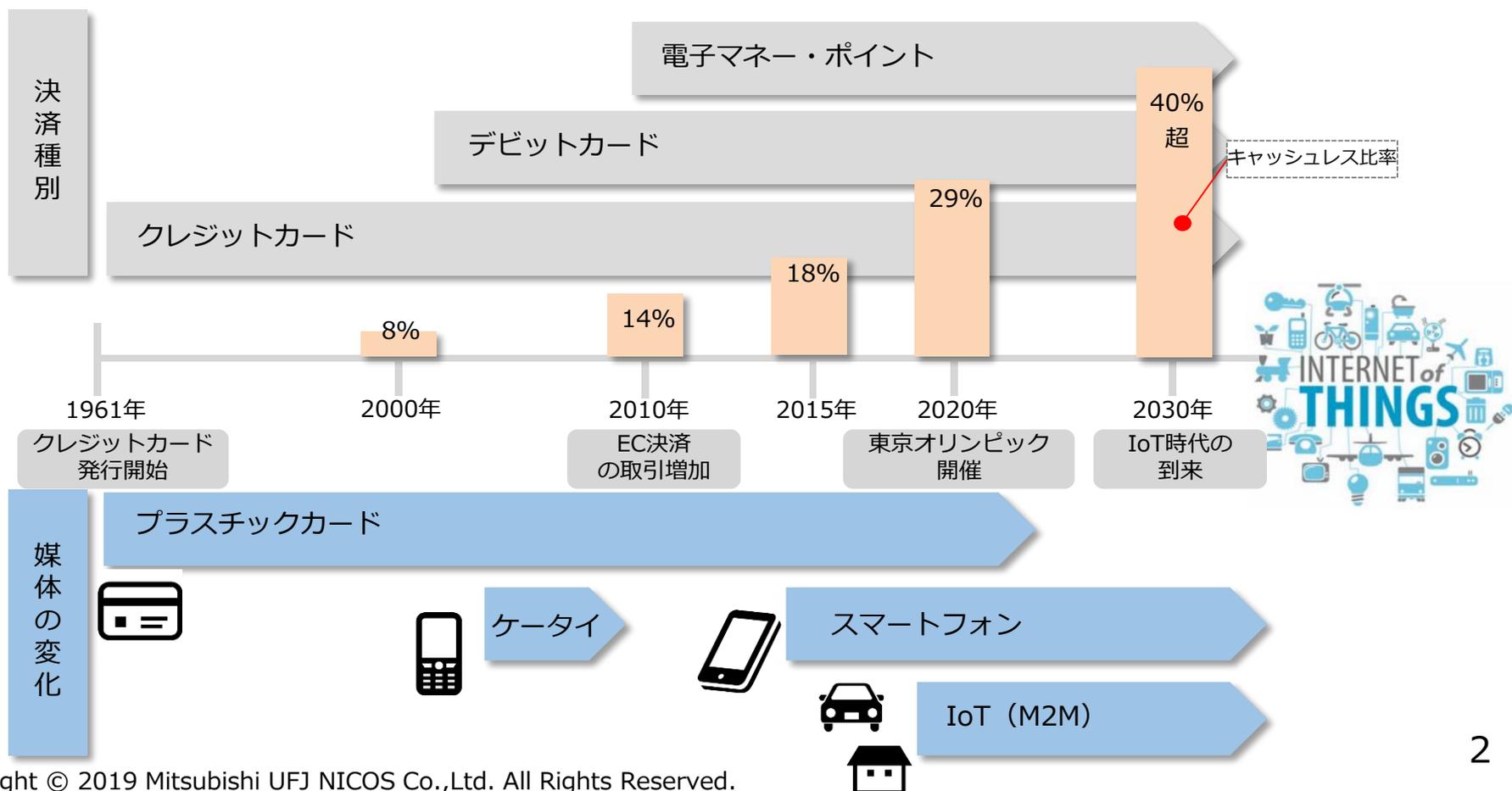
- これまでの20年でクレジットカード取扱高は約2.8倍、これからの5年は？
- 全ての領域でキャッシュレスが進展、取引量は拡大
- 爆発的なデータ量※の伸びとシンクロするかのよう決済取引も拡大。  
～IoT時代の到来 / 所有から使用へ / シェアエコノミー

※2025年世界のデジタルデータ生成量は2016年比10倍へ（IDC調査）  
※世界のデータ量が2年ごとに倍増（IDC調査）



# 2. 決済の振り返り

- 決済手段は多様化。  
～簡便さ、利得性、利用シーンに応じユーザーは賢く使い分け。
- 媒体は大きく変化、スマホの登場で決済プレーヤーが新規参入。
- IoT時代の到来によりマイクロ決済が拡大か？



# 3.足元で起きていること

- ○○Payが次々に登場。  
既存クレジットカード事業者にはない「スマホ + UX × ペイメント」を切り口に各社様々なサービスを展開。
- 将来のデータビジネスを志向した動きが活発化。 ➡ 決済は情報収集の手段



ORIGAMI



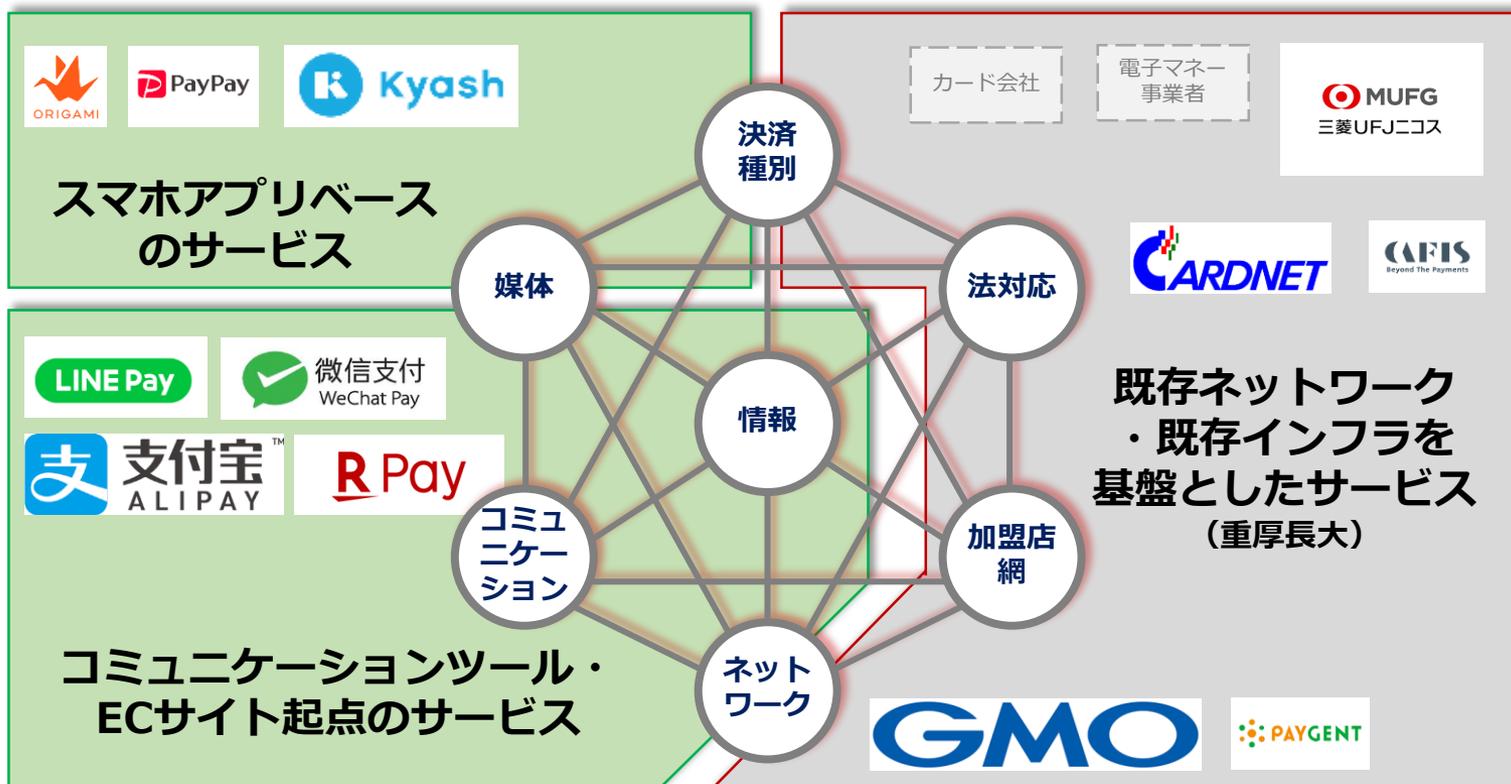
# 4. 決済分野における課題

- サービスの多くがモバイル起点に変化。カードがモバイル（アプリ）へ移行。
- 顧客と繋がりが強く接点が多い事業者が独自経済圏拡大に向け決済領域に進出。
- 日本的インフラがコストを圧迫、キャッシュレス化進展の障壁に。

## 決済分野における7つのKey Factor

新興事業者が得意とする領域

既存事業者が持つ領域



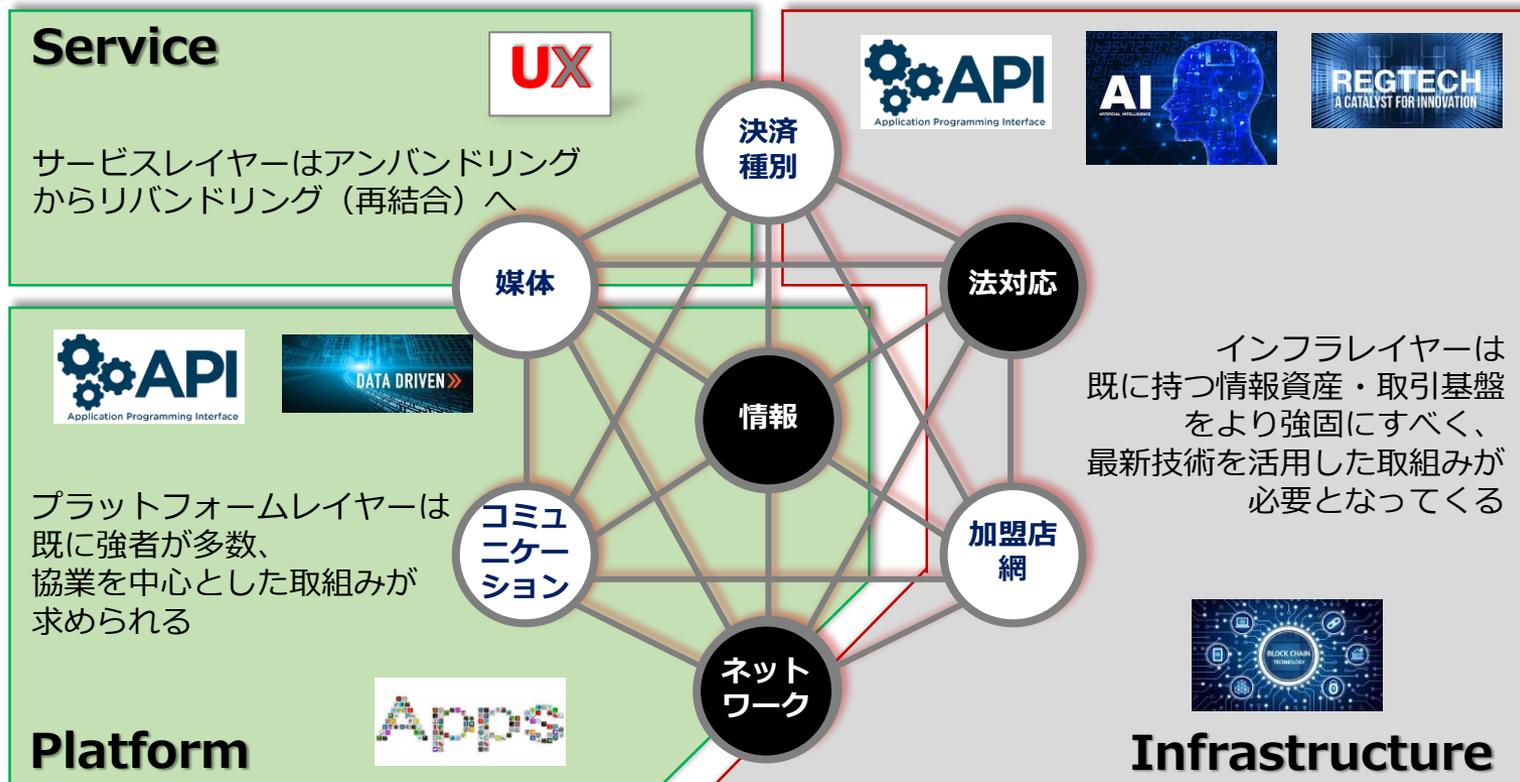
# 5. 決済分野における取組みの方向性

- キャッシュレスとIoT時代の新たな市場対応。
- 単独での解決は困難、Fintech企業との協業が重要。
- 将来を見据えたインフラ領域の革新が必要。

## 決済分野における7つのKey Factor

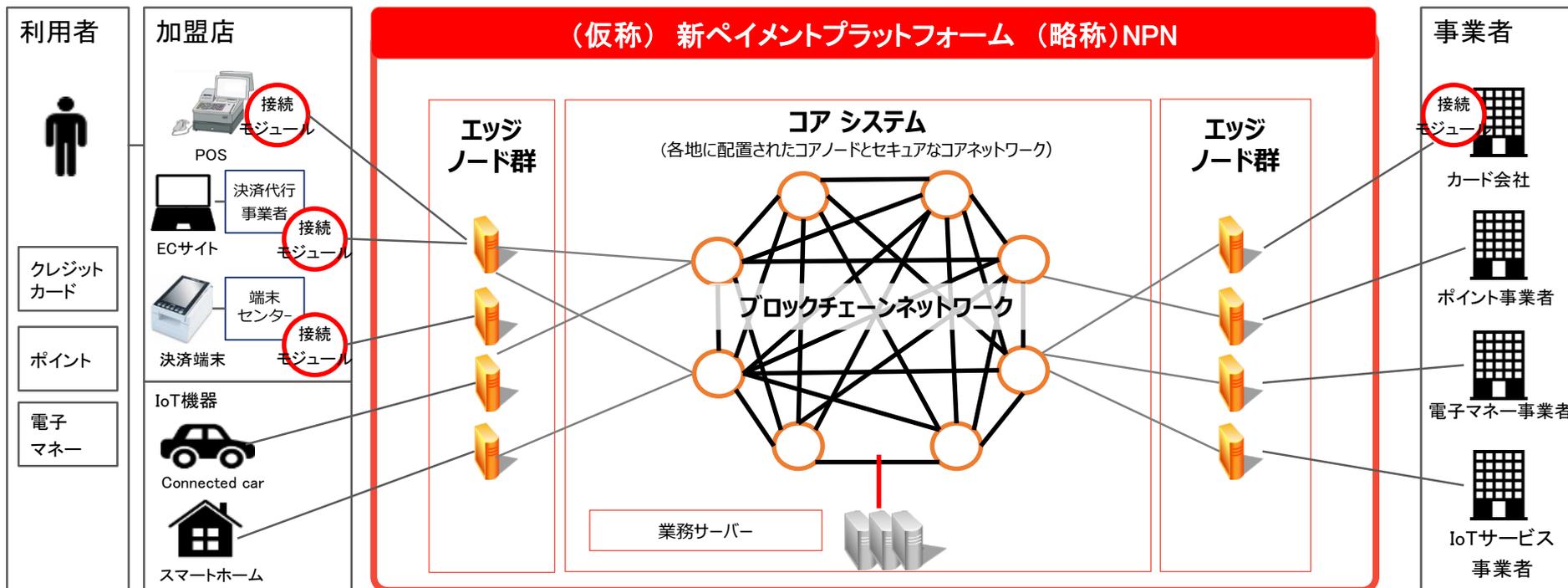
新興事業者が得意とする領域

既存事業者が持つ領域



## 新型ブロックチェーン技術を活用した「新ペイメントプラットフォーム（仮称）」

- 新型ブロックチェーン技術を米国Akamai社と協働しMUFGとして開発、従来ブロックチェーンの弱点であった「処理速度・キャパシティ・機密性」をクリアしつつ低コストを両立したプラットフォーム
- 毎秒100万件の圧倒的な処理能力により、IoT時代の決済処理を支えるインフラ基盤



## 個人のビヘイビア情報を活用した「ライフスタイル認証」

- 生体情報を使用しない新しい本人認証技術の確立。
- 利便性と安全性を兼ね備えた行動履歴データの活用と多要素認証。

